

ゆうゆうバスは廃止でなく、拡充こそ必要

坂野光雄議員が市に要求

2009年3月22日
NO. 1460

【発行】
日本共産党
市会議員団
ご相談は市役所
議員団控室へ
私部1-1-1
☎892-0121
(内線301)



中上 さち子
倉治 6-17-13
☎893-6785



さかの 光雄
私部 1-38-23
☎893-1083



さらがい ふみ
星田 7-44-21
☎894-2835

【質問】高齢者や障がい者等の外出を支援する「ゆうゆうバス」は、交野市のすぐれた施策である。ゆうゆうバスの年度別の利用者はいくらか。
【答弁】平成17年度が約14万2千人、18年度が約15万2千人、19年度が約16万人である。

平成21年1月27日に提出された「平成19年度分事務事業評価報告書」には、「福祉巡回バス（ゆうゆうバス）」について、「バスの台数を減らし効率化を上げるなどの経費縮小の検討を」「今後の存続を市として検討」としています。
日本共産党は、「ゆうゆうバスは廃止でなく、拡充こそ必要」と要求しました。

【質問】市民から要望の強いゆうゆうバスは、これからの高齢化社会において、また、障がい者が増えている状況のもと、さらに充実、増便が求められている。ところが平成19年度分事務事業評価報告書は、担当部の「長期的に持続可能な福祉輸送サービスについて継続検討」との評価を、外部評価委員会が「バスの台数を減らし効率化を上げるなどの経費縮小の検討」、また市は「今後の存続を検討」としている。市民の要望からかけ離れた見解がなぜ出されたのか。



【質問】高齢者や障がい者の外出支援において、自宅から近い所に停留所があることが望まれる。マイクロバスであるゆうゆうバスの増便こそが、一番適切と考えるがどうか。
【答弁】市の危機的財政状況、ゆうゆうバスの現状等を把握し、検討を行っていく。
【要望】財政問題からの検討でなく、何が市民に必要なのか、しっかり理念・考え方を持つべきである。ゆうゆうバスこそ市の誇れる施策であり、廃止でなく拡充を求める。

平成19年度分 事務事業評価報告書より

福祉巡回バス（ゆうゆうバス）
 (1) 1次評価（所管部・課）
 長期的に持続可能な福祉輸送サービスについて継続検討
 (2) 2次評価（財政健全化推進チーム）
 老人や障がい者に対する福祉施策に係る費用の増加が見込まれる中、廃止に向けて検討。若しくは、本来の目的は、ゆうゆうセンター等の利用者の交通手段であることを踏まえ、目的外の一般の利用者を除外し、路線を見直し効率化を図る等の検討が必要である。
 (3) 3次評価（外部評価委員会 8人で構成）
 福祉巡回バスについて、高齢者、障がい者、妊産婦など、弱者と呼ばれる人達のために運用がされてきた事を考えると、いきなり廃止は難しいが、京阪バスの路線問題や市の財政状況を考えると、効率化を図る必要がある。当初の導入意図とは違い、現在は市民の利便性で利用されている。もう一度概念をしっかりとすること。
 (4) 3次評価への対応（財政健全化推進本部 市長・各部長など15名で構成）
 福祉巡回バスについては、本来の事業目的に立ち返り、今後の存続を市として検討します。



ゆうゆうバスの利用者数

年度	合計(人)
H4年度	10,392
H5年度	20,269
H6年度	24,871
H7年度	34,742
H8年度	39,316
H9年度	41,532
H10年度	60,570
H11年度	86,525
H12年度	101,397
H13年度	117,570
H14年度	121,148
H15年度	131,651
H16年度	133,169
H17年度	141,945
H18年度	152,537
H19年度	160,527

H7年から3コースに